川井市長のせせらぎトーク

■アナーニこぼれ話■

十一月四日から九日までイタリアのアナーニ市を訪問した。交流の申し込みがあり、その調査のための出張である。こぼれ話を一つ二つ紹介したい。

一　市長と乾杯　市長の名はフランコ・フィオリートという。フィオリートとは言いづらいので、フランコ市長と呼んだら、みんながニヤニヤ笑って、フランコシチョウと言う。よく聞くと「シチョウ」とはイタリア語で「デブな人」という意味らしい。

フィオリート市長は、わずか三十一歳の若さであり、上品な、しかも、やり手の市長であるが、相当に太っている。それで、みんなはデブのフランコという意味でフランコシチョウと言ったらしい。

食事の時に、乾杯の音頭を取れと言われた。「乾杯」のことをイタリア語で「チンチン」と言う。日本語でそれがどういう意味か、向こうの人達は分かっているようである。

「乾杯の音頭を取れということですが、私は日本人ですから、日本語でやります。乾杯！」みんなは当ての外れたような顔をしていた。

二　ポスター　市内の至る所に歓迎のポスターが貼られてある。驚いたことに、アナーニの市章「ライオンとワシ」は分かるが、我が方の市章は黒釣り鐘ではなくて、なんと白石陽光園になっている。

早速フィオリート市長に確認した。「これは白石にある、宮城県では有名な福祉の施設ですが、どうしてこれを市章としてポスターに使ったのですか。」フィオリート市長はキョトンとしている。後で広報担当の職員を呼びつけて、厳しく叱責していたようだ。

インターネットで調べて、白石陽光園という字を、白石の市章と勘違いしたらしい。アルファベットの文化と、漢字文化との違いが歴然と現れた笑い話である。

三　ホテルとヴィラ　ローマのホテルは、ジョリーホテル・レオナルド・ダ・ヴィンチという立派な名前で、石造りの古典的な外見をもち、内部は近代的な造りである。

アナーニでは、ヴィラ・ダ・フロリディアナである。カゼリーナ街道沿いにあり、かつてナポリとローマを結んだ馬の中継所を改造した、わずか九室の感じのよいイン（宿屋）である。昔の道具を机や照明器具にうまく使っている。

困ったのは鍵。閉めたら開かず、閉じこめられてしまった。通訳の本田さんと、中と外で話をしてどうにかやっと分かったのだが、二回、差込がでるらしい。だからカチッ、カチッと二回いわないと、すっかり開けきらない。とんだメにあった。

四　アナーニ市　この市は「パーパ（法王）の町」という。キリスト教以前の太陽神の神殿のある、ローマより古い歴史をもつ町であるが、ボニファチオ八世、グレゴリオ九世、イノチェンツォ三世、アレッサンドロ四世の四人の法王が出ている。

イタリアで最も多く法王を出した誇りを込めて、自ら「パーパの町」と称する。

アナーニは一九五〇年代の映画を見るような懐かしい町である。かつては馬車道であった石畳の坂道。その両側にそそり立つ古い石造りの建物は、小さな店やアパートに今も使われている。古い町並みをそのまま残しながら、人々の生活の匂いのする町である。

これからの長い交流を期待したい。

※川井市長のアナーニ市訪問については、11頁もご参照ください。

みなさんからの素敵な情報を待ってます！

片倉小十郎白石城入城400年記念
親子で記念樹の植栽

11月9日、市道沖ノ沢郡山線に親子で記念樹を植える奉仕活動が行われました。

これは、片倉公が人々の生活のために沢端川などを整備したのを模範とし、親子でナナカマドの若木を植えて環境を美化し、住みよい白石をつくることを目標として行われました。

当日は、ナナカマドが約160本用意され、あらかじめ指定された場所に親子で一生懸命穴を掘って記念樹を植えていました。

豊作を祝う舞や太鼓
深谷東区白鳥神社祭

10月20日、深谷地区の白鳥神社で今年の豊作を祝う秋祭りが開かれました。

祭りでは、昨年二十数年ぶりに復活した、深谷神明神楽保存会の皆さんの協力による「子ども神楽」の舞や、深谷小学校子ども育成会「白山白鳥笠松太鼓」の皆さんによる太鼓の演奏が披露され、日ごろの練習の成果を充分に発揮した子どもたちの熱演ぶりに、集まった人たちから盛大な拍手が送られていました。